

http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~fms-O1/kankyo/kankyo_index.html

1. 環境理念・方針

基本理念

国立大学法人 山口大学は、「発見し・はぐくみ・かたちにする知の広場」の理念のもと、地域共生型キャンパスの創生と持続的発展可能な社会形成への貢献に努めるとともに、教職員、学生が自らの意欲を高め、その持てる能力を十二分に発揮して、地域環境の保全と環境負荷の低減をめざした取り組み・活動を行います。

基本方針

- (1) 事業活動における環境負荷の低減 (温室効果ガス排出抑制、グリーン購入、廃棄物抑制等)
- (2) 環境貢献技術の創出 (環境保全のための科学技術の研究、開発の推進)
- (3) 環境モラルの醸成 (環境基礎、環境モラル醸成のための教育カリキュラムの充実)
- (4) 地域との協調・コミュニケーション (地域住民との触れ合い、職員・学生の自主活動による社会、環境貢献)
- (5) 法規制の遵守とマネジメントシステムの整備・充実 (環境配慮の取り組みのための管理体制の整備)

2006年8月1日



国立大学法人山口大学
学長 丸本 卓哉

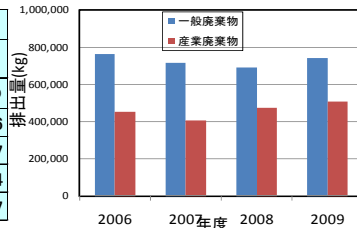
2. 環境目標と具体的な取組

基本方針	分類	具体的な取組	中期目標	2009年度目標	2009年度自己評価
事業活動における環境負荷の低減	地球温暖化対策	省エネ法に基づき省エネルギー活動によりエネルギー削減の取組	2008～2012年度の5年間で2007年度エネルギー使用量を面積原単位で5%以上を削減	面積原単位で前年度比1%以上の削減	△
		排出される温室効果ガスの排出量を削減する。	2008～2012年度の5年間で基準年の2007年レベルと比較して5%削減	面積原単位で前年度比1%以上の削減	△
環境貢献技術の創出 地域との協調・コミュニケーション	森林保護	両面印刷等の推進による印刷物の削減	中期目標期間(2004～2009年度)中に印刷経費等の10%削減	計画的削減に努める	○
	環境コミュニケーション	各種媒体を通じた環境情報の発信及び環境啓発	関係者に対する環境情報の提供	山口大学Webiにおける環境情報の発信及び公開講座やセミナー開催の拡充	△
環境モラルの醸成	環境教育	学生への環境教育の実施	学生に対する環境教育の徹底	実験排水の適正な処理をするための教育を行う	○
		職員への環境教育の実施	職員に対する環境教育の徹底	職員への研修の実施	△
環境モラルの醸成	学内環境美化	学内環境美化運動の促進	学内緑化及び学内一斉清掃の定着	学内緑化の推進及び学内一斉清掃の実施	○
	化学薬品の管理	化学薬品等の使用量の軽減	グリーンケミストリーの推進	計画的削減に努める	△
法規制の遵守とマネジメントシステムの整備・充実	化学物質の管理	排出者への教育・訓練	排水基準の遵守	排水・薬品の適正管理	△
	化学物質の管理	化学物質(排水含む)の適正管理	化学物質の適正管理の徹底	化学物質の管理情報システムの運用	△
法規制の遵守とマネジメントシステムの整備・充実	グリーン購入の推進	調達調達物品の環境配慮	グリーン調達率100%	グリーン調達率100%	○
	組織体制	環境マネジメントシステム構築の推進	環境マネジメントシステムの定着・充実	環境マネジメントシステムの定着	△

3. 環境配慮活動の状況

◆廃棄物排出量の削減

年度別	2009年度	
	一般廃棄物	産業廃棄物
排出数量(kg)		
吉田地区	183,695	100,566
小車地区	462,700	330,807
常盤地区	93,560	79,024
合計	739,955	510,397



◆温室効果ガス排出量の削減と建物等の施設整備



太陽光発電設備の設置



LED型ダウンライト



熱交換型換気扇

実績と対応

2009年度CO₂削減達成状況キャンパスのCO₂排出量及び建物延面積

キャンパス	CO ₂ 排出量		tCO ₂ /㎡
	CO ₂ 排出量	㎡	
吉田	CO ₂ 排出量	5,540	0.049
	建物延べ面積	113,396	
小車	CO ₂ 排出量	18,040	0.156
	建物延べ面積	115,700	
常盤	CO ₂ 排出量	4,950	0.064
	建物延べ面積	77,248	
合計	CO ₂ 排出量	28,530	0.093
	建物延べ面積	306,344	

禁煙強化



4. 環境管理体制

国立大学法人山口大学環境マネジメント体制に関する要項

(2006年1月16日制定) 制定

- (1) 環境関連法規制の収集、評価
- (2) 環境影響調査、評価の概要
- (3) 環境配慮推進員の活動状況
- (4) 内部監査の結果



6. 教育・研究・地域等の環境配慮およびトピックス

トピックス

◆海水と河川水からエネルギーを生み出す

海洋水と河川水の濃度差を利用した逆電気透析(RED)：REDでは2つの電極の間に陽イオン交換膜、陰イオン交換膜を多く配置した電気透析スタック内に海水と河川水を交互に流すことでクリーンなエネルギーである電気エネルギーを得るシステムです。

◆ノーマイカーデーキャンパスにエントリー～



徒歩通勤と自転車

◆実験系排水のpH監視体制の効果



施設環境部施設企画課
TEL 083-933-5125
FAX 083-933-5141

5. 環境配慮等の取組状況

◆附属小学校

～子どもたちがエネルギーを実感する授業をめざして～



◆環境セミナーへの参加



京都大学：10月24、25日参加

◆ペットボトルキャップ、フイルタム回収



エコキャップ運動

◆ホテルプロジェクト



ホテルの幼虫とその発光

7. 遵法管理の状況と情報交換

◆放射性同位元素等の管理



2009年7月3日に医学部で、放射性同位元素が発見、文部科学省への報告及び記者会見を実施しました。

◆山口大学公開講座



地産地消に取り組む
「小麦栽培から始めるパンづくり」